

No. 959

# ペレの妙技

—国際サッカー—

キング・ペレの来日！ 国際交歓サッカーのブラジル・サントスFC対全日本の試合は5月26日夜、およそ6万の観衆を集め東京・国立競技場で行なわれました。試合は前半10分にジャディールのすばらしいシュートでサントスFCがまずリード。後半も29・30分とお目当てペレが見事な個人技を發揮して2得点。追いつがる全日本は後半吉村を中心に釜本のヘディングシュートなどでサントスFCゴールを脅かしましたがゲットは出来ず、キング・ペレを中心とするブラジルサッカーの妙技に全日本は軽くないなされました。

木場を描く

# イカダ師太郎

—東京—

「木やり節」がこころよく堀割に響いて独得の情緒を作りあげる深川・木場。麻ナワでいかに組まれた大木の群れがいかにだ師の水棹一つで堀割を上り下りする。木場は江戸の風物詩の一つであった。それが今消えようとしている。東京都の港湾計画で50年までに東京湾・14号埋め立て地に移転することになった。石井赤太郎さん（77才）は祖父文吉の代から三代続いたいかにだ師である。石井さんにとって木場は骨を埋める場所だった。木場が消える、石井さんはたまらなかつた。その日から水棹を絵筆に持替えた。木場の様子を画紙にとどめ後世に伝えようというのである。午前10時床を離れてから夕方まで40本を越す筆を使って水墨画を描く毎日が続いた。タテ70センチ、ヨコ45センチの白い土佐透紙が美しい木場。に変わるまで20日近くかかる。今までもう800枚近くも描きあげた。

「木場の心が描れているよ。木場育ちの太郎だからわかるんだな」材木問屋のダンナ衆の評判は石井さんを力づけてくれる。

「この頃目が悪くなった」と言いながらも楽しそうに描き続ける石井さん、「木場の心意気は絶やさないといい切った。」